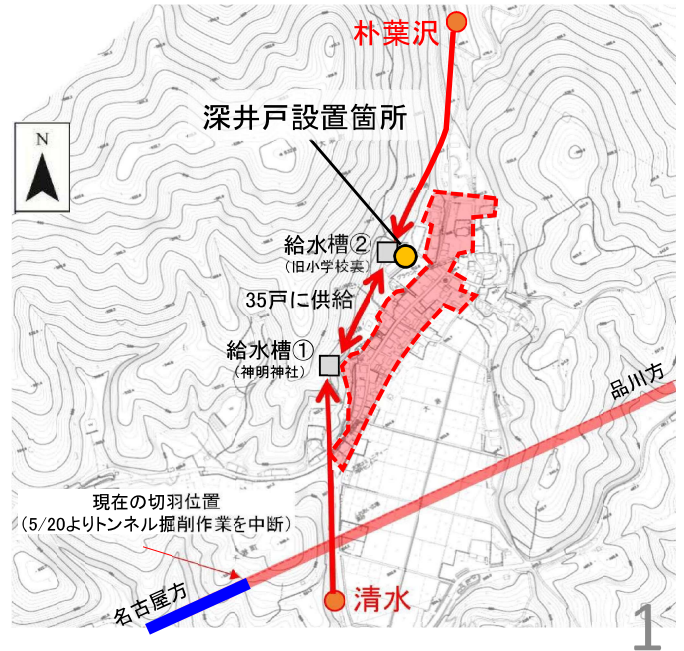


## 代替井戸の整備に係る経緯

- 2/26時点で清水水源が枯渇したことについて、3/10の大湫西区・北区総会で説明したところ、清水水源の代替井戸の整備を求める強いご要望があった。
- その後、神明・白山簡易水道組合※へご相談したところ、当面は朴葉沢水源からの供給により生活には問題ないが、夏場の水量確保と朴葉沢水源が枯渇した場合の備えとして、代替井戸を整備してほしいとのご意見を頂き、当社から深井戸と浅井戸を設けることを提案した。
- 深井戸については、給水槽②との距離が近いこと、地権者の了承が得られたことから、旧小学校裏の位置を選定した。  
(浅井戸については、地権者等と調整中)

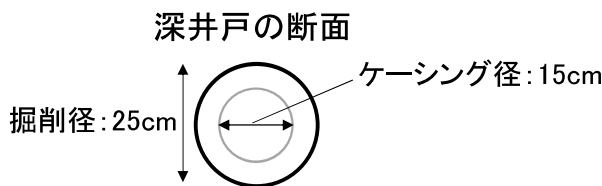
### ※神明・白山簡易水道組合

清水水源、朴葉沢水源を管理し、右図の赤色ハッチング範囲における35軒に水を供給している組合



## 深井戸の計画概要

- 深井戸は深さ150m程度を予定しており、井戸掘削の専門業者が施工を行う。  
(地質や水量により、深さを変更することがある。)
- 掘削径は25cm、掘削後に挿入するケーシングパイプ・ストレーナの径は15cmを計画している。



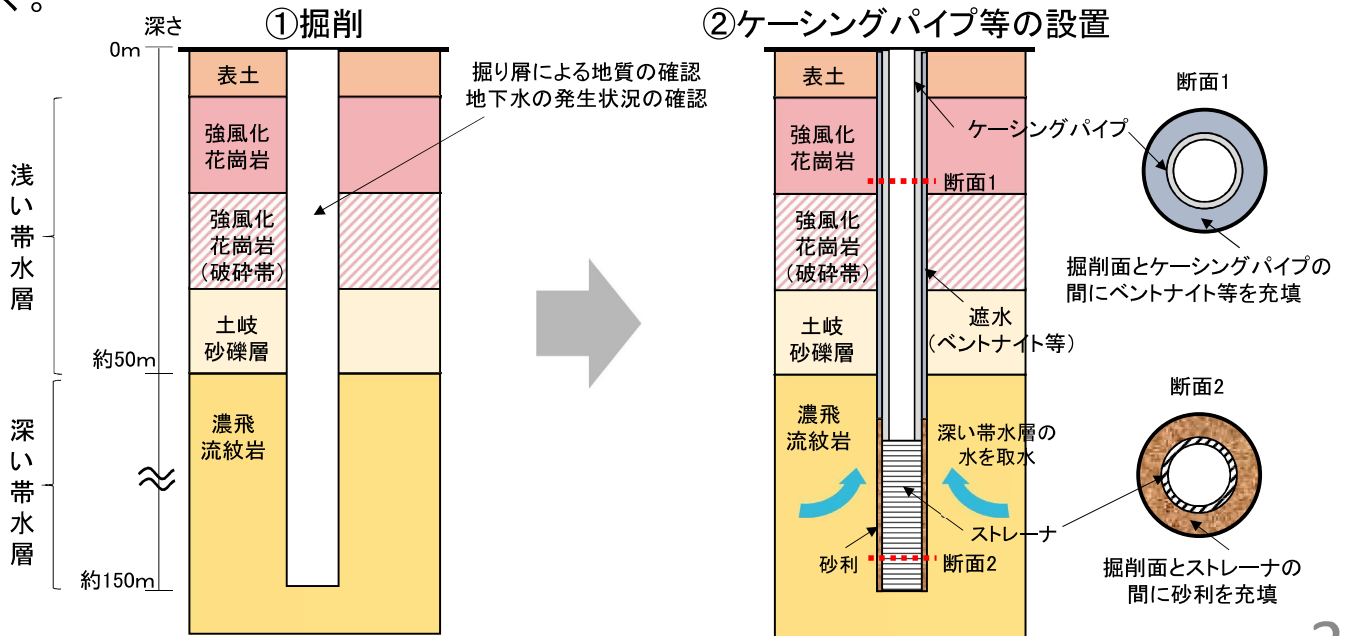
深井戸設置箇所の状況



深井戸の掘削イメージ

## 深井戸の施工手順

- 掘削時は、掘り屑による地質の確認や地下水の発生状況の確認を行う。
- 浅い帯水層(地表から深さ50mを想定)は、ベントナイト等で遮水し、周辺の地下水を引き込まないようにする。
- 深い帯水層(深さ50m以深)には、ストレーナの周囲に砂利を充填し、揚砂や孔壁の崩壊を防ぐ。



※地質は観測井2の地質調査結果を参考にしています。

3

## 深井戸による周辺井戸への影響や水質の確認について

- 取水量は、使用量が多くなる夏場でも地域の水利用に支障しない水量の確保を前提に、1日最大20m<sup>3</sup>程度(清水水源からの取水実績の1.5倍)を考えている。
- ケーシングパイプ等の設置後、揚水試験を実施する。
- 揚水試験は予備揚水試験※1、段階揚水試験※2、連続揚水試験・水位回復試験※3を考えている。試験時に周辺井戸の水位を確認する。
- 異常を確認した場合、作業を中止し、地元へ周知し、県と市に速報する。
- 地下水の水質が水道法の基準に適合しているか確認する。必要に応じて、ろ過装置等の設置を検討する。

### ※1 予備揚水試験

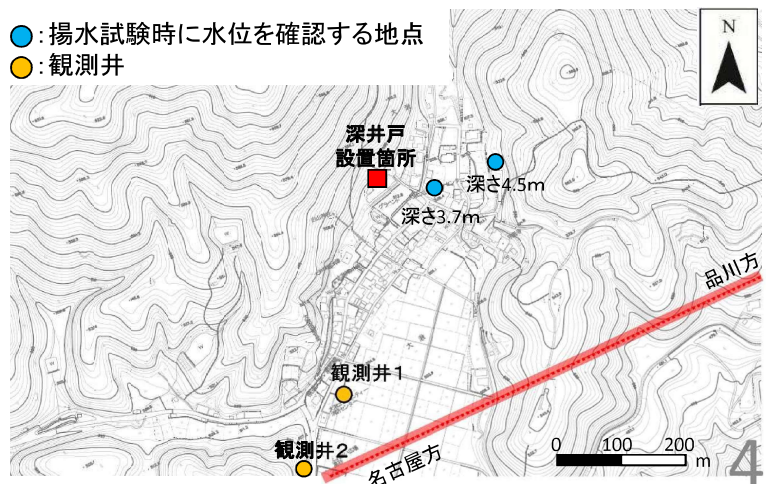
井戸内を清水にし、揚水試験用ポンプの最大揚水量を確認する

### ※2 段階的揚水試験

予備揚水試験の結果をもとに、揚水流量を段階的に区分して、1段階ずつ揚水し水位が安定すれば、次の段階の揚水する試験揚水流量と水位の関係をグラフ化し、限界揚水量を求める

### ※3 連続揚水試験・水位回復試験

帯水層の透水係数などを求めるための試験であり、周辺への影響範囲を算出するための情報が得られる



4